

## 2. 「こころのバリアフリー」ははじめの一歩

「みんな」の「不便さ」は、  
機械や設備だけで解決するのでしょうか？



人の「不便さ」は人によってさまざまです。施設を改善したり、最新式の機械に取り替えることで、まちはとても便利になってきました。でも、それだけでは解決しないこともあります。

● 誘導用ブロックのうえにかばんが…



誘導用ブロックは、目の不自由な人がでこぼこを確かめながら歩く、とても重要なものです。せっかくの誘導用ブロックの上荷物をおいたり、自転車を止めたりしていると、目の不自由な人にとって大きな“バリア”になってしまいます。

● エレベーターは「みんな」のためのものだけど…



エレベーターを待っている人のなかには「エレベーターの方が楽」と思っている人がいる一方、「階段では移動できない」という人や「階段で移動するととても危険で大変」という人もいます。

## ★あなたにも、こんな経験はありませんか？

あなたが切符を買うのに券売機の使い方がわからず手間取っていたら、後ろの人から「早く」と言われたことはありませんか？

子どもやお年寄り、外国人、障害のある人などは、急いで買おうとしても時間がかかってしまうことがあります。

気分が悪かったり、けがをして、電車の中で立っているだけでつらい…そんなとき、席をゆずってもらって、うれしかったことはありませんか？

体調がよくなかったり、けががつかなくて優先席に座りたいと思っても、座席がいっぱいだとなかなか自分からは「座らせてください」と言いづらいものです。

## その人の身になって考えてみましょう

体調がよくないとき、慣れない場所で困ってしまったとき、ちょっとしたひとことがとてもうれしいことがありますね。困っていたり、手助けを必要としている人を見かけたら、そのときの自分の気持ちを思いだしてみましょう。



## 困っているとき、こんなふうに声をかけられたら…

●「手伝いましょうか？」



あなたが、重い荷物をいくつも持って、階段を上っているとき、通りかかった人が「手伝いましょうか？」と声をかけてくれました。そのとき、どんな気持ちになったでしょう？

●「どうしましたか？」



あなたが、外出中、急にからだの具合が悪くなったとき、近くにいた人が「どうしましたか？」と声をかけ、ベンチに座らせて休ませてくれたことはありませんか？